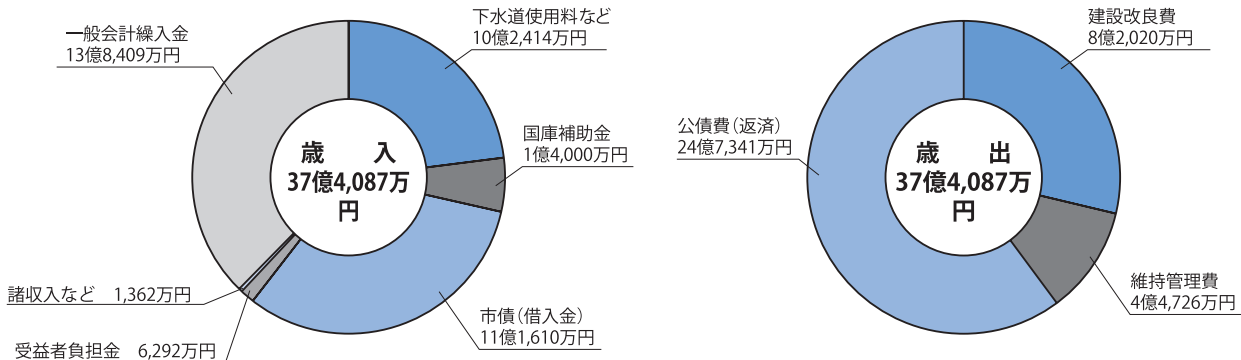


下水道事業の財政状況をお知らせします

～平成 23 年度公共下水道特別会計決算より～

公共下水道特別会計の平成 23 年度決算は、歳入、歳出とも 37 億 4,087 万円の収支ゼロで、昨年度に比べて、歳入、歳出とも 3 億 772 万円の減少となりました。その主な理由は、下水道建設費などの減少によるものでした。



～下水道を管理運営するための費用と財源について「雨水公費・汚水私費の原則」～

下水道施設を管理運営するための費用は、雨水処理費と汚水処理費があります。雨水処理費は税金（公費）で、汚水処理費は下水道使用料（私費）で負担するしくみとなっています。

汚水処理費は、使った水をきれいにするための下水道管や下水処理場の維持管理費や建設工事に要した借入金の返済などで構成されます。

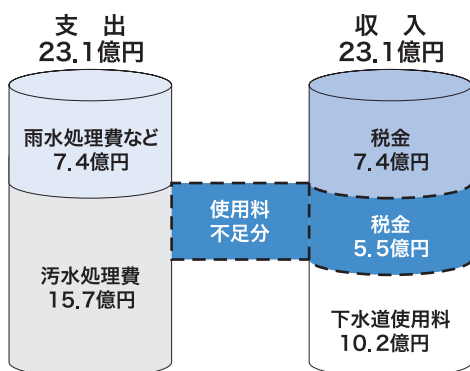
平成 23 年度は、下水（雨水・汚水）を処理するために 23.1 億円かかりました。その財源は、上記の原則により雨水処理などに要した 7.4 億円は税金（公費）で負担し、汚水処理に要した 15.7 億円は皆さまからの下水道使用料収入 10.2 億円と不足する 5.5 億円は税金（公費）で補いました。その

結果、本来 100% であるべき、汚水処理費に対する下水道使用料収入の割合（経費回収率）は、64.7% とまだまだ低い状況となっております。

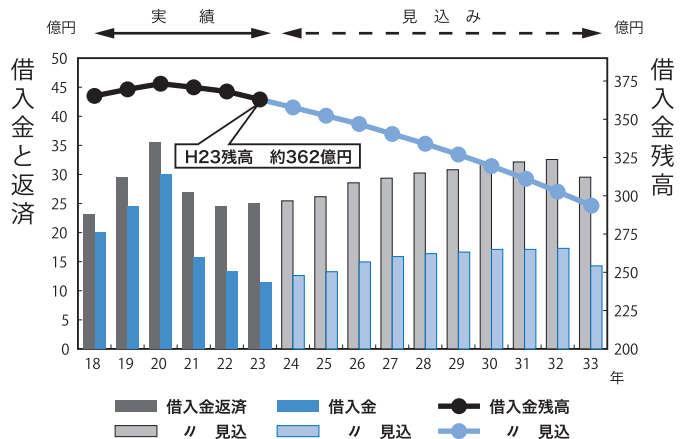
これまで、人件費の削減、施設管理の委託や低利率への借換債等による経費削減を行ってまいりましたが、下水道の普及に伴い汚水処理費は増加傾向にあり、財政状況は依然厳しい状況が見込まれます。

今後も、下水道事業の状況をお知らせするとともに、業務の見直し、維持管理費の削減、事業費の抑制など一層の経費削減に努め、効率的な下水道事業運営を図ってまいります。

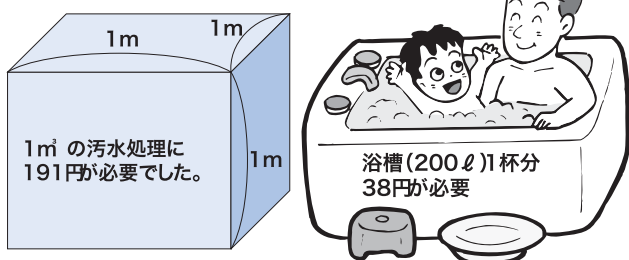
費用負担のしくみ(受益者負担の原則)



借入金の状況(借入・返済・残高)



汚水を処理するための経費



下水道使用料のゆくえ～100円の使いみち～

